

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコーブ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
訪問調査日	平成20年1月25日
評価確定日	平成20年2月22日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
所在地	鹿児島市下福元町4515番地 (電話) 099-284-6636
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年1月25日

【情報提供票より】平成20年1月1日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	14.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(20年1月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院鹿児島生協病院、谷山生協クリニック(医科、歯科)
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市南部のJR指宿線や国道に近い高台で、遠くに海が見える閑静な住宅街に建てられたホームである。全国規模の医療事業グループを基盤としており、多様で経験豊かな医療機関や福祉施設と連携している。建物は必ずしも広くはないが、ユニット毎にオープンデッキを備えるなどの配慮がなされ、入居者にも穏やかな様子がうかがえる。法人代表者や管理者をはじめとする全職員が、基本理念である一人ひとりの個性と思い出を大切に、助け合いの精神でケアの実践に努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	過去の経験を活かしたケアについては、それぞれの方の経験等を個別のシートに記載した上で、介護計画作成の参考としている。また、注意の必要な物品については、入居者の視線に入らない所に保管するよう改善されている。周辺施設等の理解、協力への働きかけについては、地域住民との関係作りを積極的に進めており、野菜などの差し入れを受けたり、交番による入居者の保護などの協力を得ている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価を実施する意義を全職員に説明し、全員で評価を行い、課題を検討して改善へ向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	会議は2ヶ月毎に、入居者、家族代表、区長、地域包括支援センター代表等が参加して開催されている。ホームの運営状況や活動計画、実施報告等を行い、それぞれの立場で活発に意見交換が行われ、日々の業務に反映されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	ご家族の訪問時や電話連絡の際、あるいは運営推進会議等でご家族からの意見、苦情、不安を話していただくような関係づくりを積極的に行っている。得られた意見等は全職員が真摯に受け止め、検討して改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地元のあいご会の活動にも参加している。また、校区の中学校の「職場体験学習」を受け入れたり、近隣の方々から野菜をいただくなどの関係が築かれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に基づく運営方針に、地域行事や活動に積極的に参加することが盛り込まれており、地域との繋がりを大切にした運営が行われている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時研修に始まり定期開催(月1回)の職員会議にて繰り返し学ぶことで理念の共有に努め、日常の介護サービスに活かすようにしている。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており回覧板などを通じ地域の動き・情報を得ている。地域のお祭りに参加したり、あいご会の資源回収にも協力している。地元の中学校からの職場体験学習を受け入れており、その感想文も寄せられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価を実施する意義を全職員に説明し、全員で自己評価を行い、課題を検討して改善へ向けて取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に、入居者、家族代表、区長、地域包括支援センター代表等が参加して開催されている。ホームの運営状況や活動の計画、実施報告等を行いホームに対する理解を深めて貰っている。外部評価に対しても、意見や助言を求めサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢者福祉事業の活用や生活保護受給者などに関する相談、また地域包括支援センターとの連携に努めるなどサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「おあしす坂之上」を毎月お送りして、暮らしの状況をお伝えしている。また面会時や電話連絡の際などに、健康状態や金銭管理について報告している。	○	金銭管理は、領収書をそえて、毎月定期的に報告することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話を通じて、ご家族の意見を日常から聞くように努めており、運営推進会議においても、ご家族や入居者が意見を述べている。玄関の事務窓口に、投書箱(ご意見用紙)を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎に職員を固定し馴染みの関係ができています。離職者がある場合は、1ヶ月前から引継ぎを行いダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政やグループホーム連絡協議会、地域のグループホームの勉強会などへ参加し、定期的職員会議にて参加者の報告を行っている。資格取得も奨励しており、勤務上の配慮がなされている。		職員の一層の質的向上を図るために、年間研修計画の作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、会議や研修会に積極的に参加している。地域のグループホームでは経験交流を行い、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族が、安心して納得してからサービスを利用できるように事前訪問を行っている。また、何回も見学していただき、一定の期間をおいて馴染みの関係づくりに努めている、状況に応じて、ご家族や介護支援専門員、親しい方々などとの面会も工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「傾聴」や「気づき」を大切にしており、入居者と職員が共に助け合い、教えてもらう場面づくりや役割に配慮しながら、穏やかに生活できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に接する中での言葉や表情、動きの中から個々人の思いを把握するように努めている。また、ご家族の情報、個別カンファレンスを通じて、職員の気づきなどを出し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族や入居前のケアマネジャー等の関係者から情報を聞き、さらに入居者本人の希望を取り入れた介護計画を作成している。なお、職員の意見は、カンファレンスやミーティングなどを通じて計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、ご家族の要望、職員の意見、日々の記録を参考にしながら見直しを行っている。状態に変化が生じた場合には、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして定期、臨時の往診や受診を行っている。協力医療機関や訪問看護との連携もとれており、健康管理がなされている。緊急時にも柔軟に対応し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族の意向を尊重して、従来からのかかりつけ医を継続している。協力医療機関を受診する場合は、了承を得た上で進めている。いずれの場合も、医療機関との密接な関係を維持している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化または終末期のあり方について明文化され、同意を得ている。職員はケアカンファレンスを通じて、看取りの指針を作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については採用時に徹底した説明がなされ、職員は、実際のケアの中で一人ひとりの尊厳を守ることの重要性を理解し実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の意向を大事にして、散歩や食事の盛り付け、後片付けなど、それぞれが役割を持ち安心して暮らすことができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れており、調理、盛り付け、配膳、後片付けなど、職員と一緒にしている方もある。同じ時間に同じ物を、同じペースで会話などしながら、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一定の入浴時間帯は決まっているが、一人ひとりの希望、状況に応じて柔軟に対応している。清潔が保たれるように、入浴を拒否される方に対しては、職員を替えて誘導を行ったり、散歩の後に入浴するなどの工夫がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴、環境、趣味、特技などを把握し、それぞれの楽しみごとや役割を持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を聞きながら、日常的に散歩や買い物に出かけている。車椅子使用の方についても、車を利用して外出の機会を積極的に設けるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除き、玄関は施錠していない。居室は中から鍵がかけられるが、必要な場合は、外側から解除することができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力・指導のもと、6ヶ月に1回の避難訓練を行っている。自動火災報知設備や消防署直通の火災通報装置が設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量については、毎日個別のチェック表により把握している。また献立については、協力医療機関の管理栄養士による定期的な指導・助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースの中で、入居者への配慮は行き届いている。トイレ、洗濯・物干し場、台所等の造りや配置に工夫がされており、玄関周りだけでなく、1・2階の物干し場にはプランターが程良く配置され、目を楽しませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた箆笥や仏壇、遺影など、馴染みの品に囲まれた居室づくりがなされ、畳に布団など、住み慣れた環境で居心地よく過ごせるような配慮もなされている。		